

★JAXA・やまぐち宇宙教育推進事業★

★活動レポート④★

山口県教育庁
社会教育・文化財課
2019年12月21日

12月21日（土）、下関市にある菊川ふれあい会館にて、「宇宙の学校～第3回～」を開催し、総勢31組91人の家族が参加されました。インフルエンザの流行で参加者がかなり少なくなったのは残念ですが、集まった皆さんは元気いっぱい、真剣なまなざしで、講師である「子ども・宇宙・未来の会（通称：KU-MA）」の稲葉 茂 氏のお話に耳を傾けていました。

☆スポイトロケットの高性能にビックリ！☆

今回の活動は「スポイトロケットを飛ばそう」と題して、ロケットが飛ぶ仕組みをスポイトと注射器を組み合わせることで学びました。親子で協力して発射台を組み立てるのに、プラスドライバーやスパナを初めて使う子どもが多かったのですが、完成までのイメージがしやすい教材だったので、低学年の子ども達でも、あっという間に完成させることができました。いよいよ発射する時になりましたが、子ども達がいくら勢いよく注射器を押しても、なかなか高く飛びません。そんな時、稲葉先生が「よく見てごらん。飛ぶロケットと飛ばないロケットで、何が違うかな？」と、スポイトをセットする様子に子ども達を注目させました。すると子どもたちの中から、「分かった！チューブにちょっとだけ差し込んでたよ！」と違いを発見する声！稲葉先生のちょっとした仕掛けで、子ども達の「観る力・聴く力」が高まっていきました。

さらに、スポイトの中に水を加えることで、3倍以上も高く飛ばすことができました。天井近くまで飛ばしていた子、なかなかうまく飛ばなくて苦労した子と様々でしたが、どの家庭でも、きっと帰ってから何度も何度も実験をして、探求を楽しんだのではないのでしょうか。

また、「宇宙の学校」の特徴的な取組である「家庭学習レポート発表会」では、どの家庭も力作ぞろいでした。親子で仲良く発表する姿は、とても微笑ましく、子ども達が真剣に耳を傾けたり質問したりする様子に、満足感をどの家庭も感じていたようです。

☆参加者・スタッフの感想よい☆

○スポイトロケットに「空気だけ」と「空気と水」を入れて飛ばし比べましたが、結果の違いにビックリしました。

○簡単な実験ですが、奥が深かったです。

○稲葉先生がとても良いお話をされるので、親にとっても良い機会になりました。

○「宇宙の学校」という名前に魅かれ、宇宙のことを全く知らなかった息子が、第1回目から今に至るまで、宇宙や科学に興味をもてるようになり、感謝申し上げます。

○不思議なものに対する感動を大切にできる機会は、とても大切と感じました。CGではない、本物を見ていくことは、とても良いと思いました。

